

全国地震動予測地図 平成22年(2010年)

National Seismic Hazard Maps for Japan (2010)

地震調査研究推進本部地震調査委員会
The Earthquake Research Committee, the Headquarters for Earthquake Research Promotion

検索ワード 地震調査 <http://www.jishin.go.jp/>

- 「全国地震動予測地図」は、地震ハザードマップの一種です。これまでの地震調査研究推進本部の成果を地図にまとめたもので、「震源断層を特定した地震動予測地図」と「確率論的地震動予測地図」の二種類があります。
- 日本は世界有数の地震国であり、全国どこであっても地震に対する備えが必要です。この地図が国民の地震防災への意識向上や、効果的な防災対策を進めるための基礎資料として活用されることを期待しています。

確率論的地震動予測地図

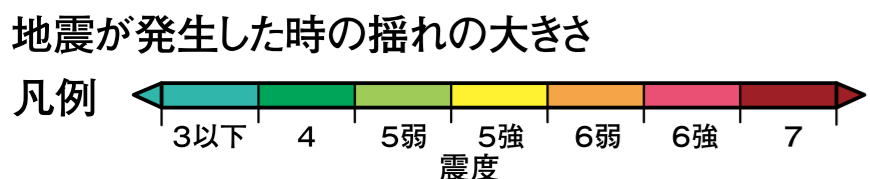
Probabilistic Seismic Hazard Map (基準日:2010年1月1日)
—今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率—

「確率論的地震動予測地図」は、日本とその周辺で発生するすべての地震の位置・規模・確率に基づいて、各地点がどの程度の確率でどの程度揺れるかを色分けして示したものです。この地図は、「その場所が今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」を示しています。

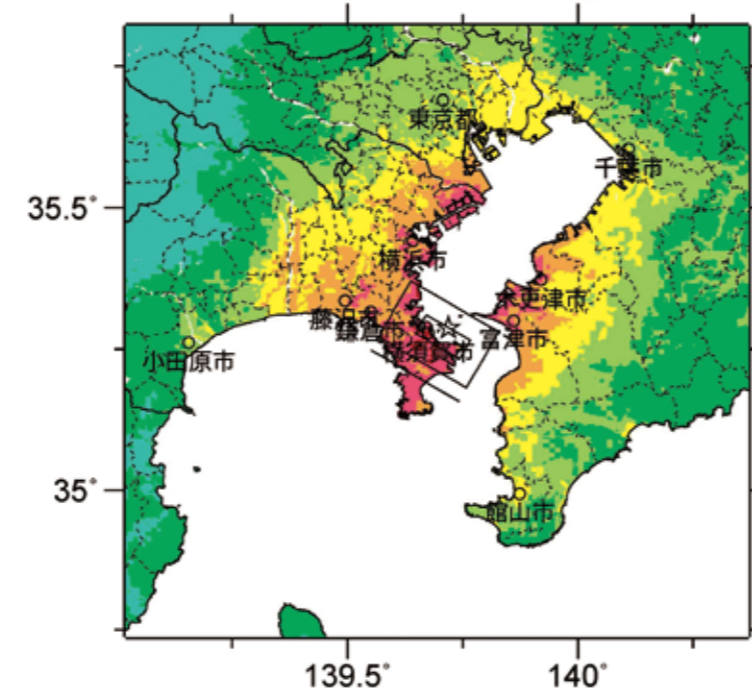
震源断層を特定した地震動予測地図

Seismic Hazard Maps for Specified Seismic Source Faults

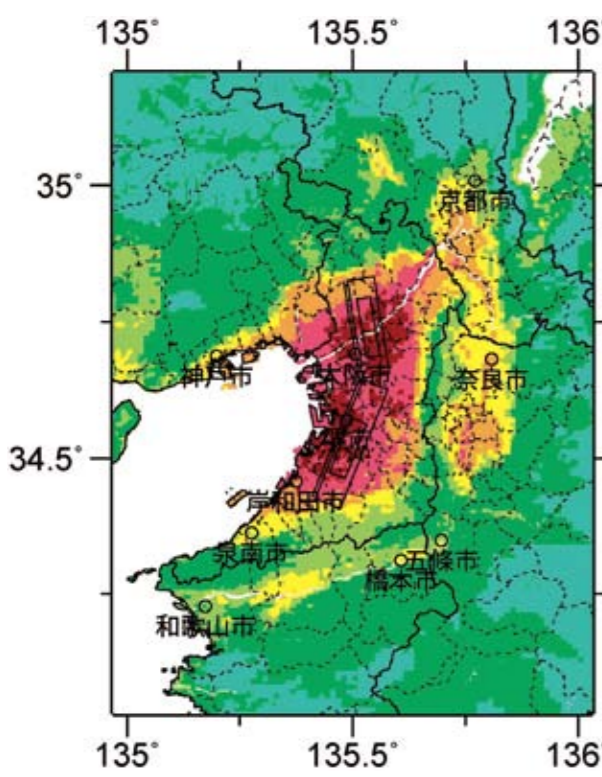
「震源断層を特定した地震動予測地図」は、ある特定の地震(ある断層の特定のすべり)が発生した場合に各地点がどのように揺れるのかを計算してその分布を地図に示したものです。



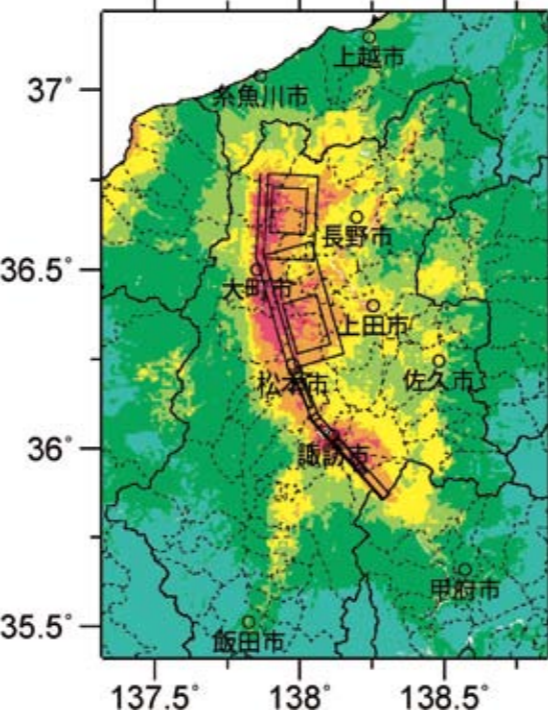
三浦半島断層群(主部:武山断層帯) M6.6程度もしくはそれ以上*



上町断層帯 M7.5程度*

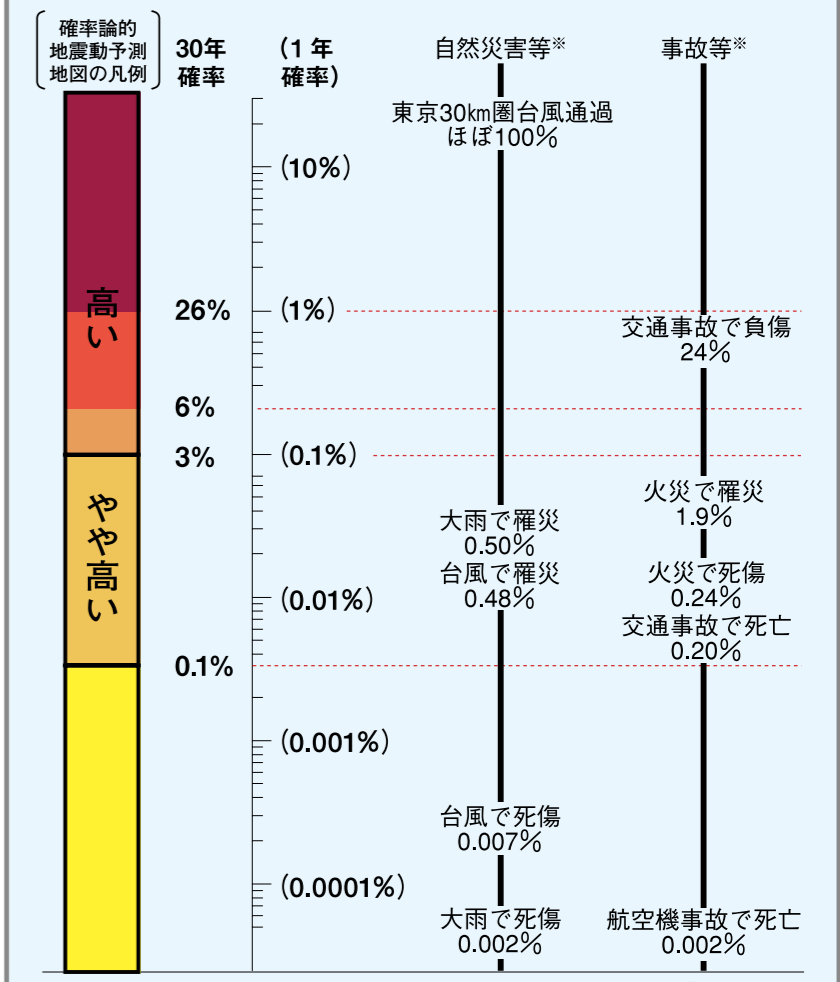


糸魚川-静岡構造線断層帯(牛伏寺断層を含む区間) M8程度*



*各断層帯で地震が発生した時の規模(M)を示しています。

参考図 日本における自然災害・事故の30年発生確率の比較
この参考図は、「今後30年以内に数%」という値が日常生活において無視できない数値であることを理解するための参考情報です。確率論的地震動予測地図に示される地震動の「超過確率」(ある値を超える揺れに見舞われる確率)は「ハザード」の評価結果であり、必ずしもここで例示した事象の「発生確率」や「リスク」と同様に比較できるものではありませんが、数値の重みを受け止める上での参考としてご覧ください。



地震が起きたら あわてず、まず身の安全を!! 緊急地震速報を見聞きしたら

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてず外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてた行動、けがのもと
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- 近づかない、門や塀、自動販売機やビルのそば
- 海岸でぐらっときたら高台へ

出典:気象庁

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

